とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	草花保育園
活動日時	令和7年9月8日（月）
クラス名（年齢）	もも　　組（　4　歳児）
年間テーマ	自然

1、活動テーマ

＜テーマ＞

「見て　触れて　感じて　考える」

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

・４月から育てていたかぼちゃの収穫が終わり、長く伸びた茎や葉っぱだけが残されたので、それを使って何かしようと考えた

2、活動スケジュール

・かぼちゃの伸びた茎や枯れた葉っぱを観たり触ったりしてみる
・かぼちゃの茎や葉っぱを切ってみる
・細かくした茎や葉っぱをままごとに使い遊ぶ

3、環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・粘土用玩具を用意する
・皿などの容器を用意する
・ままごとができるような台を用意する

4、探究活動の実践

＜活動内容＞

・4月から育てていたかぼちゃの収穫が終わり、葉っぱや茎が残っていたので、それを皆で触れたり、切ったり、切ったり、丸めたりして遊ぶ

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
・ヘラで茎を切ろうとして「これ、かたいよ」「これ（節）があるからじゃない？」「ここなら切れたよ」「小さいところがいいんじゃない」 ・大きな葉を頭に乗せ「キラキラ帽子できたよ」「〇〇ちゃんの頭にのせてあげた」 ・「(葉っぱに）蟻がのぼってきた」「蟻さんが(葉っぱ）食べてる」「これ、蟻さんのご飯にしよう」葉の形が小松菜を連想させ「小松菜スープ、作ろう」「ここに入れて」「これも（砂）も入れちゃおう」 ・切った茎が空洞になっていることに気付いて「ストローみたい」切った茎を覗いて「見えたよ」 ・「みて、（葉っぱに小石を）置いたの」	

5、振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

・かぼちゃを育てている時には生長の妨げになるので、葉っぱを触らないように話してあったので、収穫が終わり初めて触れることができた。思っていたより硬かったが、これをすぐに遊びの材料にして楽しんでいた。帽子や蟻のご飯にする発想も子どもならではだと思った。今回ヘラで切ることが難しかったので、もっと切りやすいものを用意したら、さらに遊びが広がると思った。